



# 楷

第三十三号

岡山大学  
 附属図書館報  
 OKAYAMA UNIVERSITY  
 LIBRARY BULLETIN

KAI  
 No.33

2001  
 OCTOBER

<写真>

徒ぐ里 (つぐり)  
 形鶯ニ似テ稍小シ尾鶯ヨリ  
 短シ鳥ヲ逐トイヘドモ取ル  
 ベクアタハズ

## — 目 次 —

- 大学図書館 (附属図書館長) ..... p. 2
- 鹿田分館の今後の課題 (鹿田分館情報管理係長) ..... p. 4
- シリーズ：電子情報をもっと知ろう①  
 — “電子ジャーナル” って何？— (電子情報係) ..... p. 6
- えっ、こんなに増えているの！  
 — 新館完成後の利用増大について— (参考調査係) ..... p. 9
- マスカット ..... p.10  
 学外利用者の増加 図書受入冊数の増加 オリエンテーション報告  
 平成13年度二次文献情報データベースガイダンスについて 教官寄贈図書 他
- 会議・研修・編集委員会から ..... p.14

# 大学附属図書館

松村智弘

大学改革が急速に進行しつつあり、文部科学省からはトップ30の育成の方向が示され、構造改革の面からは、国立大学の行政法人化が目前に迫ろうとしている。一方、コミュニケーションの媒体が紙から電子化へ大きく変化しようとしている転換期にある。このような状況の中で、大学附属図書館のあり方もいろいろな面で岐路に立たされていると思われる。この4月に附属図書館長に就任し、約4ヶ月を経た現在、少なくともこう在りたいと考える図書館像を思い付くままに記してみた。

**大学図書館の新しい機能** 従来の図書館のイメージは資料の収集、整理および提供であったと思われるが、平成3年の『大学設置基準の改正』でこれらの他に「情報の処理及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに・・・他の大学の図書館等との協力を努めるものとする」とされ、新しい機能が追加されている。つまり、図書館は全学の図書資料あるいは学術資料の収集・提供の要となるとともに、システムを整備し、学内の学術情報の流通基盤になることが期待されている。このような意味からも、大学の附属図書館は教育研究の高度化、情報化を支える学術基盤として不可欠のものである。

**課題探求型教育への対応** 21世紀への教育改革の中で従来の伝授型教育だけでなく、課題探究型の学生教育が求められている。そのためには教室外での活動が重要であり、大学附属図書館の果たす役割は今後さらに大きいものになると考えられる。すなわち、学生は学習のための情報を図書館に求めることになり、図書館にある情報を、図書館であるいは在宅で、利用できることが必須となるであろう。課題探究型学習に際し、オンライン化された設備の中で、キーワードで検索すれば必要な情報が、書物であれ、画面であれ、音声であれ、適切に提供される事は極めて基本的なこととなると考えられる。学部あるいは大学院学生に対して、シラバス記載の情報は如何なる方法にせよ利用できる必要があると同時に、カリキュラム・シラバスに応じた適切な選書が行われていなければならない。また、教材の電子化に伴って、マルチメディア教材を利用しうる環境を整える必要がある。一般に学部学生は自分の学習しうる場所を大学内では持っていない場合が多く、学習の場として図書館が利用されることが多い。このような学生の学習を支援する環境を、図書館は持つ必要がある。

**情報リテラシー教育** 基礎知識としてのコンピューターリテラシー教育から情報リテラシー教育へ移行しつつある中で、学術情報基盤をもつ図書館の果たす役割は大きい。岡山大学における図書館での情報検索論の導入は「学術情報の検索と活用－図書館を利用する－」というテーマの総合科目である。これは、メディアを利用する方法論と演習を、教官と図書館員が協力して実施しているもので、前期・後期各々50名ずつ年間計100名の学生が受講している。しかし、情報リテラシー教育の重要性は今後益々増加する筈であり、図書館における教育について改めて考える時期になっている。

**二次文献情報データベースの整備** デジタルネットワークが普及し、社会のインフラの整備により情報化は加速されてきているが、通常は、一般業務の効率化の面での変化が中心である。しかし、図書館の情報化の場合は業務の効率化の観点からだけでなく、取り扱う中味の変化であると言われている。情報媒体が、紙から多様な媒体の利用へと、本質的に変貌しようとしていることである。すなわち、図書館の業務管理のためにではなく、取り扱う媒体の変化により、書物を整備保管し提供する従来型の図書館機能の他に、種々な媒体の情報を収集・整備し、図書館の内外からのアクセスに対応する必要がある。教育研究の場において学術的コミュニケーションの電子化による変貌を考慮する時、迅速・的確な情報収集が極めて重要であり、適切な二次文献情報データベースの整備は必要不可欠なものである。高等教育と先端科学技術の研究開発という大学の役割を果たすために、このような情報基盤の確立が必要になっている。

**電子ジャーナルの導入** 近年学術雑誌の電子化が急速に進行しており、教育研究の場で情報を迅速に広範囲に何時でも自由に得るためには、電子化雑誌の購入は必要条件であり、教育研究上不可欠なものになりつつある。電子ジャーナルは利用者の利便性の拡大（発行の迅速性、海外との情報格差の克服、24時間複数の方が閲覧可能、検索機能やリンク機能を持っている等）、重複雑誌の削減、省スペース化などその導入効果は大きい。学内でもその利便性が理解され、導入が要請されているにも拘わらず、経費負担の問題が立ちはだかっている。電子メディアはネットワークを介した全学的利用が可能であり、従来の受益者負担方式には馴染まない部分がある。全学的な規模で共有可能な電子ジャーナルの導入は、全学的な利用を前提とし共通の経費によって購入することが望ましく、各部局のコンセンサスを得る必要がある。

**生涯学習支援** 地域との連携の観点から、岡山大学附属図書館は生涯学習支援機能を持つ必要がある。生涯教育支援の場合、最新の専門的知識の提供と情報リテラシー教育を含む一般教養的知識の提供などが考えられる。専門的な情報に関しては、現在、岡山大学では研究者総覧あるいはリエゾンオフィスなどで研究者の情報を提供しているが、大学における先端的研究成果を迅速に有効に社会に提供するためには、各部局の研究業績が大学としてリアルタイムに収集、整備され、その情報が学内・学外を問わずキーワードでアクセスでき、迅速に提供できる必要がある。情報の迅速な収集、整備と発信は、大学全体として今後はさらに積極的に取り組まねばならない課題の一つである。地域からの発信の観点からは岡山大学の所有する図書・雑誌の目録情報（書誌情報と所在情報）のデータベース化（遡及入力）、特に池田家文庫などの貴重な特殊資料の保存とデータベース化の問題がある。貴重な資料が存在することの発信とその資料を電子化して国内外に発信可能な状態にすることが必要である。

岡山大学附属図書館では『将来構想検討小委員会』、『電子図書館研究開発室』などを設置し、将来構想の検討を行ってきているが、急速なIT化の流れの中では大学全体として教育研究に関する情報の適切な収集と発信、すなわち知的財産の統合的管理と発信が必要であり、今後色々な施設との強い連携が必要になる。附属図書館は大学の顔あるいは心臓であると言われ、トップ30の中に入るためにも各部局・施設の協力をお願いしたい。

（まつむら・ともひろ 附属図書館長）

# 鹿田分館の今後の課題

中 島 茂 樹

鹿田分館は、医学、歯学、さらに薬学を含む生命科学分野の研究と教育、医療を支援する図書館として鹿田キャンパスを中心に全学の教職員、学生、および地域の皆さんにサービスを提供しています。

蔵書量と利用者数では、中国、四国地区の医学系国立大学図書館では、もっとも充実した図書館ですが、いろいろな悩みを抱えています。思いつくままに鹿田分館の抱えている悩みを3つ挙げてみることにします。

## 1. 建物

まず、最初の悩みは、建物が狭隘なことです。

新館と呼ばれる建物は昭和42年に医学図書館として建設されました。既に完成から34年が経過しております。完成時13万7千冊の鹿田地区の蔵書は、毎年増え続け、現在では約2倍の27万3千冊になり、鹿田分館のほか各研究室とも満杯状態です。そして、この間の増築はありませんでした。

新館に続く、保存用の旧書庫は、建築後50年以上経過しており、こちらはひどく老朽化しています。

これらのことの改善策のひとつとして、平成12年度には、旧書庫の一部に集密書架を設置しました。古い刊行年度の雑誌を移動させ、新書庫の配架スペースを確保しましたが、これは、ほんの一時しのぎにすぎません。保存については、あと3～4年が限度と思われます。

また図書館3階には、講義室等の大きな共用施設がありますが、この施設が図書館面積に算入されているため、増築を検討する際に図書館の不足面積が表面化しないという矛盾を抱えていて、これについては、学内調整が必要です。

閲覧座席も不足しています。一貫教育体制への移行で学生の鹿田地区での授業が増加していること、保健学科の新設、大学院重点化等で座席不足が目立つようになってきました。(現在178席)さらに、保健学科の学生数が整備の終わる平成14年度まで増加します。奉仕対象者を基準にした望ましい座席数という基準では利用対象者の15%といわれており、これをあてはめると約340座席が必要で、大幅な座席不足ということになります。

館内設備も老朽化しています。視聴覚施設がないことや、マルチメディア関連の施設も十分なサービススペースがとれないため、CD-ROMをはじめ医学系の有用な実習材料であるビデオによる手術の勉強等、情報化の進展にともなうサービスの展開ができません。これらは、いずれも、建物施設に起因するもので、同じ岡山大学附属図書館でありながら、新築された津島地区の中央館と比較し、鹿田地区の図書館利用者が受けるサービスには大きな差があり鹿田地区の利用者の皆さんには気の毒です。

これらの問題の解決には、鹿田地区の増築に対する盛り上がりと地区の増築についての教授会をはじめとする関係者の思い切った決断が求められます。また、増築を検討する際には、最近の図書館の増築の例では、他の関連施設との合築や、地域社会への開放型の機能をもたせる医学系メディア情報センター的な形も視野に入れる必要があります。

## 2. 外国雑誌の購入費

次に、分館で購入する主に外国雑誌を含む資料費の問題です。

外国雑誌は医学系大学図書館の特色として、分館全体の予算に占める割合が高く、鹿田分館でも全予算の半分以上を占めています。為替の円安や雑誌の原価の値上げのため、価格が高騰していますが、大学予算全体が縮小傾向にあるため、外国雑誌費の確保に毎年悩みます。

この購入外国雑誌は、平成4年には430誌を購入していましたが、平成13年度には237誌に減少しています。さらに最近の円安傾向も気にかかるところで、新たな財源を確保できなければ、近いうちに見直しを検討することになるかもしれません。

資料費の部局負担については、地区の利用者にできるだけ薄く広く公平な負担になるような方法を考える必要がありますが、これ以上の購入削減は、図書館機能の大幅な低下につながります。図書館に、利用したい資料がなくなり、他大学に文献複写を依頼することが多くなれば、研究に支障が生じることは明白で、研究に必要な雑誌をできるだけ維持していかなければ分館の機能は大きく揺らぐことになると考えています。

これからは、鹿田分館と研究室で重複購入している雑誌、購入雑誌のうち電子ジャーナルで利用できるもの等について調整して、効率の良い購入方法を検討する必要があります。資料費の捻出については、鹿田地区の先生方のサポートをお願いするところです。

## 3. 分館運営経費

最後は、運営経費の問題です。鹿田分館は鹿田キャンパスの共通施設ですので基本的には医学部を中心とする鹿田地区で各部局において相応の負担をして維持してきました。しかし、予算配分方法の見直しが始まり、地区の多数の部局を対象にする複合分館の運営経費の捻出については、従来の方法では理解が得られにくい状況になってきました。

現在、国立大学は独立法人化にむけて将来構想の見通しも立てにくい状況ですが、分館制度を維持するためには、大学全体の予算配分のなかでの調整も必要かと思います。このままでは、図書館機能を維持する組織として、近いうちに危機的な状況が訪れるのではないかと危惧しています。現在の部局経費負担は決して少ない額ではありませんが、学術情報の中心となる鹿田分館を地区の全員で支えていただきたいと考えております。

鹿田分館の職員は、利用者の皆さんに少しでも利用のしやすい図書館を目指して、いつでも多様な外国雑誌や書籍が利用できることが鹿田分館の使命と考え努力しています。皆さん方のご支援とご協力をお願いするところです。

(なかしま・しげき 鹿田分館情報管理係長)



# シリーズ：電子情報をもっと知ろう①

## － “電子ジャーナル” って何？ －

### 電 子 情 報 係

#### “電子ジャーナル” って何？

みなさんは、“電子ジャーナル”を使ったことがありますか。「電子ジャーナルって、それ何？」と、聞かれる利用者の方もいるかもしれませんね。簡単に言うと、電子ジャーナルは、これまで紙で出版されていた雑誌を、インターネットなどのネットワークを利用して、パソコンなどの画面上で読み、ダウンロード・印刷できるようにした電子資料です。大学などの機関が、この電子ジャーナルを購入した場合の利点は、①速報性、②利便性、③共用性などにあります。一般に掲載される論文は、手元に届くまでにタイムラグがあるのに対して、電子ジャーナルはインターネットを利用する分、タイムラグが解消され、速報性に優れています。例えば、Elsevier Science社の“*Aquatic Toxicology*”は、平成13年8月時点で印刷体が8月分までしか図書館に受入されていないのに対して、電子ジャーナルでは10月分まで全文入手することができます。また、電子ジャーナルは、図書館に足を運ぶ手間や論文を探す手間を容易に解消してくれます。24時間いつでも利用できるのも、図書館が閉まっても、論文を入手することができます。利便性に関して、印刷物にはない数多くの利点があると言えます。電子ジャーナルは、一般的には年間のライセンス契約によって、利用者範囲、認証方式、キャンパス、ダウンロード、利用の監視、違反時の措置、価格などの条件が規程され、このライセンスを購読機関がサインすることで利用が可能となります。ライセンスは、大学の教職員や学生に対して、電子ジャーナルの安定的な利用を、契約期間の間保証してくれます。この保証は、大学のような利用人数の多い場所では、他人の利用に関係なく、個々の研究者や学生が欲しいときに欲しい論文をネットワークを通して入手できることを意味しており、共用性のある資料と言えます。これ以外にも、電子ジャーナルは、利用者や図書館にとって、そのメリットはまだ数多くあると言えるでしょう。

#### 電子ジャーナルの発展

1990年代において、インターネットの世界的な普及とデジタル技術の高度化を契機にして、大手出版業者・学協会・大学出版会は、それまで印刷物として出版・発送していた雑誌をインターネットを使って、全文提供することをはじめました。電子ジャーナル時代のはじまりです。大手出版社や一部の学協会では、最初に述べたような電子ジャーナルの利点を生かして、これまでの印刷物では実現できなかった、論文の検索機能、最新号発行と同時に利用者に興味のある論文をメールで通知するアラート機能などの付加機能をもった、電子ジャーナルシステムの開発を行いました。21世紀の今日においても、電子ジャーナル化の勢いは依然衰えることなく、正確な数字は得られないものの、世界中で毎年数千タイトル以上の雑誌が、電子ジャーナルとして有償または無償で発行されており、その傾向は年々増加傾向にあります。機能的にも、論文から関連論文へとマウスクリックで、効率的にジャンプすることができるようになったり、医学系ジャーナルなどでは引用文献から

Pubmedへの論文単位のリンクがあったり、バックナンバーの充実など年々使い易くなっています。

### 電子ジャーナルの種類

一既に、電子ジャーナルといっても、その提供形態や価格体系は多種多様です。前者の分類で見ると、大きくわけて出版社・学協会が電子ジャーナルを提供している場合と、二次文献情報データベース業者が電子ジャーナルを複数の出版社・学協会から集めてきて、自社のデータベース検索システムから電子ジャーナルの論文単位のリンクしている場合があります。

前者のケースでは、大手出版社を中心に、自ら電子ジャーナルシステムを開発して、後者の検索システムに劣らない機能を提供しています。例えば、Academic Press社「IDEAL」、Elsevier Science社「Science Direct」、Wiley社「InterScience」、Blackwell Munksgard社「Synergy」、Springer社「LINK」がよく知られています。また、学会系電子ジャーナルでは、数学、物理学や医学の分野で早くからインターネットを使った電子ジャーナルによる提供が試みられました。最近では、その分野も幅広くなりつつあります。一方、大学出版会では、Oxford University Press, Cambridge University Press, John Hopkins University Press, The University of Chicago Pressなど欧米の大学出版会を中心に電子ジャーナルによる出版が積極的に取り組まれています。

これまで二次情報と呼ばれる文献情報を提供してきた二次文献情報データベース業者は、出版社の電子ジャーナルへの進出に影響を受けてか、文献の検索システムから全文情報へアプローチする仕組みを構築し、その有用性をアピールしています。このような業者は、出版社から多くの電子ジャーナルを集めてきて、自社システムから集散的にサービスするところから、「アグリゲータ」と呼ばれています。代表的なアグリゲータ系のシステムとしては、Catchword、Journals@Ovid、EBSCOhost、First Search ECO、Highwire Press、ProQuestなどがあります。

一例として Journals@Ovidについて紹介します。Ovid Technology社が提供する電子ジャーナルシステムであり、現在図書館でサービスしている Biological Abstract, EBMR, Medline, MLA, PsycINFOの二次文献情報データベースの検索結果から全文情報を入手することができます。実際には、Journals@Ovidも含めて、ほとんどのアグリゲータ系電子ジャーナルは、全文情報については有償となっており、出版社から当該雑誌を機関購読するなど別途契約が必要となります。

### 電子ジャーナルとライセンス

岡山大学附属図書館では、1997年から電子ジャーナルサービスを、図書館ホームページで行っています。1997年から2001年における電子ジャーナルのタイトル数は、1997年（87タイトル）から2000年（約1200タイトル）と順調にタイトル数を伸ばしてきました。しかし、2001年は前年の半分（約700タイトル）と減少に転じました。この減少の原因として、①冊子体購読タイトル数の減少、②電子ジャーナルの有償化があります。一般に、電子ジャーナルには有償のものが多く、先に述べたとおり、その利用は雑誌発行元のライセンスによって、利用の範囲や料金体系が決められています。ライセンスは毎年、発行元によって見直されます。

最近、図書館や利用者にとって、衝撃的なニュースがありました。これまで冊子体購読に含めて利用できていた、一般科学誌「Nature」および姉妹誌の電子ジャーナルが、2002年以降サイトライセンスの導入により、機関向けは冊子体とは別体系で販売するとの情報が流れたのです。同様に、「Science」の電子ジャーナルもサイトライセンス契約なので、別途料金が必要です。これらの電子ジャーナルの年間の機関購読価格は、FTE（Full-Time Equivalent）と呼ばれる学生、教職員、研究

員の合計で算出されます。通常、大学の規模が大きくなるほど、購読価格は高くなります。言い換えれば、電子ジャーナルは生き物のように、発行元によって毎年利用条件が異なるので、今年は見られても、翌年は見られるとは限らないわけです。

(参考)

“Nature” <http://www.nature.com/help/sitelicences/>

“Science” <http://www.sciencemag.org/subscriptions/inst-sol-access.dtl>

ところで、利用者の方からよく「このタイトルは電子ジャーナルで見られますか?」とか、年末にかけて「このタイトルの電子ジャーナルが、急に見られなくなりました。」という質問を受けます。現在、図書館でサービスしている電子ジャーナルのほとんどは、外国雑誌であり、海外と同じくライセンスは、毎年12月末で切れてしまいます。現状の電子ジャーナルのサービスにおいて、翌年にどのタイトルが見られて、どのタイトルが見られないのかを、事前に調査しておくことが図書館の重要な作業となります。毎年9月末に、翌年度の印刷体の外国雑誌契約が行われるので、翌年の電子ジャーナル登録手続きを12月末までにできればよいのですが、実際には電子ジャーナルの利用登録に必要な契約番号(Subscription Number)が当年中に入手できないため、年末年始にかけて一時的に見られなくなる電子ジャーナルがあります。図書館としても、なるべく効率的、かつ迅速な登録に努力しているところです。

冒頭で述べたとおり、電子ジャーナルの契約は、電子ジャーナルのアクセス権を購入することを意味します。よって電子ジャーナルへのアクセスに関する保証は、印刷物購読料金に含めて利用できる場合よりも確実です。印刷体の機関購読料金に電子ジャーナルが含まれるタイトルの場合、利用者が電子ジャーナルにアクセスできるようにするために、図書館では毎年下記に示す作業を行っているので紹介しておきます。

- ①外国雑誌購読契約の手続き(国内代理店との契約)
- ②電子ジャーナル利用のための海外出版社等へのWeb、フォームによる登録
- ③電子ジャーナルへの全文アクセスの確認
- ④図書館ホームページの電子ジャーナルリストへの登録

## 最後に

最近、図書館の電子ジャーナル化をめぐる評価を行った論文にめぐり合いました。ひとつは、奈良県立医科大学の廣井氏が書かれた“奈良県立医科大学附属図書館購読プリント版外国雑誌におけるオンライン版オンリーの購読への移行”[大学図書館研究 No.61, p41-53]であり、もうひとつは、Drexel University(米国)が書かれた“Measuring the Impact of an Electronic Journal Collection on Library Costs”[D-Lib Magazine, October 2000]です。これらの論文は、自らの大学図書館で外国雑誌を印刷体から電子ジャーナルに移行した経緯を踏まえ、図書館管理およびサービス面での評価が報告されています。これらの論文を読んで、購読雑誌の電子ジャーナル化により図書館運営・図書館サービスのあり方・スタッフの専門性など、新たな図書館像が求められていると実感しました。



## えっ、こんなに増えているの！

## —新館完成後の利用増大について—

## 参 考 調 査 係

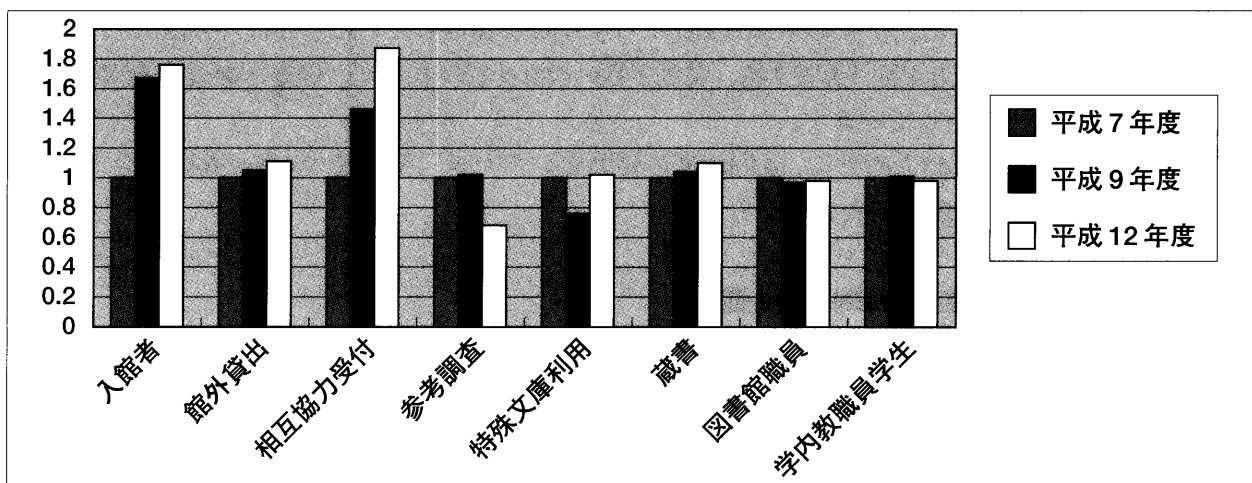
	入館者 (人)	館外貸出 (冊)	相互協力 受 付 (件)	参考調査 (件)	特殊文庫 利 用 (点)	蔵 書 (冊)	図書館 職 員 (人)	学 内 教職員 学 生 (人)
平成7年度	380,755	120,956	7,817	49,970	4,912	1,675,736	58	17,698
平成9年度	635,849	127,112	11,401	51,154	3,712	1,741,727	56	17,793
平成12年度	669,266	134,783	14,626	33,894	5,023	1,842,709	57	17,399

平成8年度に附属図書館中央館の本館改修と新館増築の工事がありました。工事期間中に部分休館やサービスの制限をしたため、平成7年度を新館増築前のデータとしました。平成9年3月に竣工しました。

新館増築により、中央館の施設面積は2.2倍、閲覧座席数は2.3倍になりました。その後、平成10年4月に電子情報係が設けられ、電子図書館を指向する体制ができました。同年9月からは外注による遡及入力も始まっています。平成7年に開設された図書館ホームページは、OPACはもちろん、池田家文庫絵図類総覧公開、オンラインシステムによる教官サービスの開始など、年々増強され、「居ながらにして、図書館を利用する」ことが実現されつつあります。

上記数字は、こういう背景を如実に反映したものとなりました。

下図では平成7年度を基準にして、変化の割合を示しています。



## マスカット

### 学外利用者の増加

図書館では、学術に関わる学習や調査・研究を目的とする学外利用者に対して、利用を許可しています。中央館では平成10年度にはのべ4万人程だった学外利用者も、平成12年度には5万人（全入館者の11%）を越えました。地域に対する図書館公開が浸透してきたことと喜んでいますが、その一方で、目的のはっきりとしない利用や、マナーが悪いといった問題点も生じ、頭を痛めています。そこで、入館に際して利用の諸注意を記した用紙をお渡しし、良識ある利用をお願いしています。

### 平成12年度遡及入力結果報告

平成10年度、平成11年度と同様に教育研究・改善プロジェクト経費で、56,371冊を入力しました。（3ヶ年で、187,350冊を入力）当初、第一次4ヶ年計画では、358,000冊の入力を予定していたため、4年度目の今年は残り、162,650冊の入力を完了しなくてはならない計算になります。

関係各位のご協力をお願いします。

### 平成13年度の教養教育科目授業への協力

平成10年度から始まった学生の評価の高い授業ですが、インターネット利用が普及し、パソコンを使っただけの検索では、開始当時と比較して「初心者」のレベルも変化しています。職員の負担の軽減を図る意味でも、抜本的な改革の必要があるという意見も多く出てきています。

### 図書受入冊数の増加

平成11年度から、契約事務の事務局への一元化に伴い、図書関係の支払い業務が図書館に一本化されたことにより、平成11年度の資料受入係での取り扱い冊数が、和書28,221冊、洋書12,688冊、合計41,009冊（前年度の1.4倍）と大幅に増加しました。

平成12年度は、和書35,502冊、洋書11,412冊、合計46,919冊（前年度の1.14倍）を受け入れました。

### 図書館ボランティアの現況

導入4年目に入りました。平成10年10月1日からずっと参加されている方5名（男性3名、女性2名）、その後加入された方4名（男性2名、女性2名）の計9名の方々に、図書・雑誌の配架、相互利用係の援助等をお願いしています。

昨年度一日平均で、1.55人の方に、4.93時間の援助をいただき、今年度の4月～6月平均では2.24人の方に、8.06時間の援助をいただきました。

### マルチメディア語学実習室 OPEN（中央館）

本館3階に語学学習専用のパソコン20台を備えたマルチメディア語学実習室がOPENしました。語学学習に是非ご活用ください。利用に事前の予約の必要はありません。詳しい利用方法については備え付けの「利用の手引き」をご覧ください。

## 新入生オリエンテーション（中央館）

中央館では新入生に向けて、基本的な図書館の利用方法を習得していただくためのオリエンテーションを実施しました。

また、今年は4年ぶりに、二部の学生向けに夜間のオリエンテーションも実施しました。

実施日程：4月10日（火）～6月6日（金）

（※当初の募集期間は6月1日（金）まで。土・日・休館日は除く）

内 容：図書館の基本的な利用についての案内

インターネットによる学内の図書・雑誌の検索（OPAC実習）

館内ツアー

実施回数：個人参加（15回） 授業・ゼミ単位（54回 うち夜間8回）

参加人数：個人参加（228人） 授業・ゼミ単位（1,110人）

## 二次文献情報データベース利用ガイダンスについて

図書館では、二次文献情報データベースをまだあまり利用したことのない学内利用者を対象に、利用説明を行っています。図書館で購入している代表的なデータベースを中心に、その検索の方法や注意点について、デモンストレーションを兼ねて説明しています。4月～7月期では、130名の参加がありました。主な要領は下記のとおりです。ご利用ください。特に、学生の参加を歓迎いたします。

期 間：平成13年4月2日～平成14年3月31日（月～金で休館日を除く）

10:00～12:00、13:00～16:00

場 所：附属図書館 新館1階 AV演習室

（他ガイダンスの都合で場所の変更になることがあります）

対象者：本学の教職員・大学院生・学部学生（学外者は対象外です）

データベース：（人文社会科学）MLA, PsycINFO

（自然科学）Chemical Abstracts

（複合領域）雑誌記事索引、朝日新聞記事

内 容：（1）データベースの特徴 （2）例題を用いた検索デモ （3）検索結果の出力方法

申込み：希望日時、データベース名、人数、連絡先（代表者）、実習の有無を、電子情報係までご連絡ください

URL：<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/campus/guidance/>

## オリエンテーション・ガイダンス（鹿田分館）

鹿田分館では、学部等から依頼を受け、次の利用案内を行いました。

4月 学士オリエンテーションにて 利用案内

医学部新入生オリエンテーションにて 利用案内

医学部保健学科新入生オリエンテーションにて 利用案内

順正高等看護専門学校オリエンテーションにて 利用案内・館内ツアー

医歯学総合研究科講義にて 利用案内・文献検索・館内ツアー

歯学部学部早期発見学習にて 館内ツアー

5月 専攻科助産学ガイダンスにて 文献検索・文献検索実習

看護学専攻2学年図書館文献検索ガイダンスにて 文献検索・文献検索実習

## EBMRセミナー

EBM (Evidence-based Medicine: 根拠に基づく医療) における情報収集に有効な検索システム: EBMRの導入に伴い、鹿田分館でセミナーを開催し、19名の参加がありました。

開催日: 平成13年4月20日 (金) 15:00~17:00

場 所: 鹿田分館3階大講堂

講 師: ユサコ株式会社 (橋本剛氏)

## オリエンテーション・ガイダンス (資源生物科学研究所分館)

大学院自然科学研究科新入生に対して、施設の利用の仕方・見学、端末及びOPAC・二次文献情報DB等の使い方の説明が行われました。

## 平成13年度目録システム地域講習会

国立情報学研究所と岡山大学附属図書館との共催で開催している目録システム地域講習会も、今年からは、中国四国地区で1箇所の開催となり、地の利、開催実績等により今年度の開催を依頼されました。

今年度から、Web UIPを利用した講習となり、総合情報処理センターの実習室を借りて、8月29日 (水) ~8月31日 (金) の日程で開催しました。

なお、次年度以降も中国四国地区で1校の開催となるため、主要大学で持ちまわりも考えられています。また、相互協力の見地から、広島大学、山口大学、愛媛大学各1名の講師を依頼しました。

## 池田家文庫等貴重資料展のお知らせ

図書館では今年も池田家文庫等貴重資料展を開催します。テーマは「岡山藩江戸藩邸ものがたり」です。開催期間は平成13年10月23日 (火) から11月1日 (木) まで、土・日曜日もおいでいただけます。また、開催期間中の10月27日 (土) には、宮崎勝美氏 (東京大学史料編纂所教授) による「岡山藩の江戸藩邸」と題した講演会も予定しております。

## 教官からの寄贈図書リスト

次の方々から著書を寄贈いただきました。ありがとうございます。今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

### <中央館>

石井明 (Participants) [環]

Schistosomes, liver flukes and helicobacter pylori——IRAC, 1994 (491.65/S)

岩間一雄 [法]

比較政治思想史講義: アダム・スミスと福沢諭吉——大学教育出版, 1997 (311.2/I)

小田琢三 [名]

小田琢三教授退官記念研究業績集——小田琢三教授退官記念会癌源研究施設生化学部門同門会, 1989 (490.4/O)

遺伝生物化学実験 (共著) ——大学教育出版, 1992 (467.2/O)

河本修 [理]

身近に学ぶ力学——共立出版, 2000 (423/K)

身近に学ぶ電磁気学——共立出版, 2000 (427/K)

田中共子 [文]

留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル——ナカニシヤ出版, 2000  
(361.4/T)

永井廣 (共編) [名]

The paranasal sinuses of higher primates : development, function, and evolution  
——Quintessence, 1999 (491.134/P)

永田博 (共著) [経]

Psycholinguistics, language, mind and world——Longman, an imprint of Person Education, 2001  
(801.04/S)

早津彦哉 [名]

微生物学 (分担執筆) ——南江堂, 1984 (491.7/B)

Advances in chitin science (論文掲載) ——Jacques Andre, 1997 (464/A)

Antimutagenesis and anticarcinogenesis mechanisms (共編) ——Plenum, 1993 (494.5/A)

山口恒夫 [名]

ザリガニはなぜハサミをふるうのか：生きものの共通原理を探る——中央公論新社, 2000  
(485.3/Y)

## &lt;鹿田分館&gt;

川田智恵子 (分担執筆) [医]

保健医療行動科学事典——メヂカルフレンド社, 1999 (S490.3/HO)

カウンセリング辞典——誠信書房, 1990 (S146.8/KA)

吉良尚平 (主任研究者) [大医歯]

健康づくりセンターを活用した生活習慣病予防のための地域連携システムの開発：厚生科学  
学研究研究費補助金健康科学総合研究事業 平成10年度～平成12年度総合研究報告書  
——2001 (498/KY)健康づくりセンターを活用した生活習慣病予防のための地域連携システムの開発：厚生科学  
学研究研究費補助金健康科学総合研究事業 平成12年度総括・分担報告書——2001 (498/KY)海水中多環変異原物質の時間荷重平均値測定法の開発とその実用化：平成10年度～平成12  
年度科学研究費補助金 (基盤研究(B)(1)) 研究成果報告書——2001 (498/KA)

小坂二度見 [名]

岡山大学回顧録——岡山大学医学部麻酔・蘇生学教室同門会, 2001 (289/KO)

村上宅郎 (共編) [大医歯]

Scanning electron microscopy of vascular casts : methods and applications——Kluwer Academic  
Publishers, 1992 (492.1/SC)

(敬称略五十音順)

## 会議

### ◆学外

- 13. 4.26 第49回中国四国地区大学図書館協議会総会（於 メルパルク広島）  
・文献画像伝送システムによる文献複写サービスについて、他
- 4.27 第28回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（於 メルパルク広島）  
・独立行政法人化に向けての大学図書館の在り方について、他
- 5.29 平成13年度国立大学附属図書館事務部長会議（於 東京医科歯科大学）  
・大学図書館の当面する諸問題について
- 5.31 国立大学図書館協議会理事会（平成12年度第4回）（於 東京大学附属図書館）
- 6. 1 平成13年度第1回岡山県大学図書館協議会総会（於 岡山理科大学図書館）  
・平成13年度事業計画について、他
- 6. 5 平成13年度岡山県図書館協会第1回理事会（於 岡山県総合文化センター）  
・平成12年度事業報告、収支決算報告について、他
- 6.11 平成13年度岡山県図書館協会総会（於 岡山県総合文化センター）  
・平成12年度事業報告、収支決算報告について、他
- 6.27～6.28 第48回国立大学図書館協議会総会（於 北海道大学学術交流会館）  
・大学の管理運営体制における附属図書館長の位置付けと役割について、他
- 7. 4 岡山県大学図書館協議会第1回研修委員会（於 倉敷芸術科学大学図書館）  
・平成13年度研修事業について

### ◆学内

- 13. 2. 7 平成12年度第3回附属図書館運営委員会
- 3. 9 平成12年度第4回附属図書館運営委員会
- 5.25 平成13年度第1回電子ジャーナル整備検討小委員会
- 6.12 資源生物科学研究所分館運営委員会
- 6.18 平成13年度第1回池田家文庫等特殊文庫委員会
- 6.19 平成13年度第1回附属図書館運営委員会
- 7. 2 平成13年度第1回鹿田分館運営委員会
- 7.25 平成13年度第2回電子ジャーナル整備検討小委員会
- 7.27 平成13年度第1回図書館将来構想検討小委員会

## 研修

- ・平成13年度（前期）岡山大学職員研修（放送大学科目履修コース）  
参加者 古中秀子（4.10～8.3）
- ・平成13年度第1回岡山大学会計（簿記）研修  
参加者 亀川勝典（5.18～7.27）
- ・電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修  
参加者 遠矢厚志（8.2～8.3）
- ・平成13年度目録システム地域講習会（図書コース）  
参加者 中村泰子 實成彰子 犬飼恵美子  
本城曜子 高月恵（8.29～8.31）

## 編集委員会から

爽やかな秋風とともに、「楷」第33号をお届けします。

今号からデザインを一新しました。表紙絵は、池田家文庫の「備前国備中国之内領内産物絵図帳」から採用しました。御意見をいただければ幸いです。永らく表紙デザイン・レイアウトを御担当いただきました清水國夫先生に厚く感謝いたします。

マスカットのページにありますように、今年の池田家文庫等貴重資料展は「岡山藩江戸藩邸ものがたり」と題して開催します。ご期待下さい。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.33 平成13年10月10日

発行人 香川一郎 編集 広報委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページURL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>